

Rasumofsky Quartett, Wien

日本オーストリア友好 150 周年記念公式コンサート

ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団

共演ピアニスト 早坂 有里亜・竹内 俊平・前田 真澄



Yuria Hayasaka



Shunpei Takeuchi



Masumi Maeda



Program

シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品 44 《pf. 早坂 有里亜》
Robert Schumann: Klavierquintett Es-Dur Op.44

ブラームス：ピアノ五重奏曲 ヘ短調 作品 34 《pf. 竹内 俊平》
Johannes Brahms: Klavierquintett f-moll Op.34

ドヴォルジャーク：ピアノ五重奏曲 イ長調 作品 81 《pf. 前田 真澄》
Antonín Dvořák: Klavierquintett A-Dur Op.81

2019. 12月15日《日》14:00 開演 (13:30 開場)

HAKUJU HALL ※裏面地図参照

全自由席 ¥4,500 ※未就学児の方のご入場はご遠慮ください。

前売 / ソレイユ音楽事務所 03-3863-5552 ・チケットぴあ <http://pia/t/> ・Web チケットの王様 <http://www.soleilmusic.com>

主催●ソレイユ音楽事務所 03-3863-5552 後援●オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム・月刊「音楽現代」

Rasumofsky Quartett, Wien

共演ピアニスト

Pianists

早坂有里亜 Yuria Hayasaka

仙台市出身。常盤木学園高等学校音楽科を卒業。東京音楽大学器楽専攻（ピアノ）を経て同大学大学院修士課程を修了。現在科目等履修生として同大学院に在籍中。2003年～2009年 ピティナピアノコンペティションB、D、E級全国決勝大会入選。第21回フリーゲルピアノコンチェルトフェスティバル「夢コン」グランコンチェルト部門優秀演奏賞（1位）。第4回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 大学・一般A部門 銅賞。第15回東北ショパン学生ピアノコンクール大学生部門 銅賞。第1回ダヌビア・タレント国際音楽コンクール（ハンガリーにて）ピアノ部門 ディプロマ賞。

仙台、山形、東京を中心に多数のコンサートに出演。これまでにピアノを土山真理子、平岡百合子、一柳麻衣、一柳和男、鷺見加寿子の各氏に、ソルフェージュを菊池えり子氏に、室内楽を山洞智氏に師事。現在ピアノを後藤美由紀、吉田友昭、赤松林太郎の各氏に師事する。

竹内 俊平 Shunpei Takeuchi

武蔵野音楽大学ピアノ科卒業、同大学院修士課程修了。ショパン音楽大学、モスクワ音楽院でのマスタークラスにてディプロマ取得。ロサンゼルスでネイガウスの弟子であるコンスタンティン・シロウニアン氏の自宅にて、ザルツブルグではイェルク・デームス氏の自宅に伺い薫陶を受ける。スペインの音楽祭「Beyond The Music」に講師として参加。後進の指導やソロコンサートを行う他、伴奏や室内楽の演奏活動も行っている。2017年「モンゴルと日本国交樹立50周年記念コンサート」に出演しモンゴル政府より感謝状を授与される。2018年アドリアン・コックスと二台ピアノで共演し、好評を博す。

これまでにピアノを小門敏子、コンスタンティン・シロウニアン、ラルフ・ハイパー、イェルク・デームス各氏に師事。Poemu ピアノ教室代表。

前田 真澄 Masumi Maeda

山形県立山形北高等学校音楽科を首席で卒業。桐朋学園大学音楽学部演奏学科を卒業後、同大学研究科を修了。その後ウィーン国立音楽大学ピアノ科にて研鑽を積む。第4回山形県ジュニアピアノコンクールにて金賞受賞。第24回ソレイユ新人演奏家オーディション、国際芸術連盟主催第43回新人オーディションに合格、共に演奏会に出演。2016年に初のソロリサイタルを行い、好評を博す。リサイタル記念として、Cafetalk 後援のもと『ブルグミュラー：25の練習曲集 Op.100』の全曲録音を行う。現在は室内楽を中心に学び、アドリアン・コックスなど様々な演奏家と共演し、積極的に演奏活動を行っている。また、コンクールやオーディションの審査、伴奏員を務める傍ら、後進の育成に励んでいる。

現在、桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」ピアノ講師。諏訪山音楽学院ピアノ講師。ソレイユ音楽事務所専属アーティスト。

Hakuju-Hall ご案内

東京都渋谷区富ヶ谷 1-37-5 (株)白寿生科学研究所本社ビル 7F Tel.03-5478-8867
千代田線「代々木公園駅」、小田急線「代々木八幡駅」より徒歩5分
バス：「富ヶ谷」下車徒歩1分 渋谷南口バスターミナルより10分
渋61 (初台駅行)・渋63 (中野行)・渋64 (中野行)・
渋66 (阿佐ヶ谷行)・渋67 (笹塚循環)



ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団

Rasumofsky Quartett, Wien

●コンサート評より

アンサンブルは緻密で音程の精度が高く、熟練した印象を与える。特にチェロのT.シュスラーは随所で存在感を発揮。冒頭でのハイドンの人気作、二短調作品76-2《五度》では、第1ヴァイオリンのF.ズィーゲルトが短/長調の変化する色彩に機敏な反応を示して聴き応えがあった。
渡辺 和彦 (音楽の友 2016年1月号より)

彼らの庄の少ない繊細な弓さばきから紡ぎ出されるハイドン、モーツァルトは、音色や響きを調和させながら語り、対話し、時にノートイネガルの語尾の変形を駆使しながら、雅なコミュニケーションを音で彫刻する……
小倉多美子 (ムジカノヴァ 2016年3月号より)

音楽的コンセンサスは練りに練られ、純正律の音程から艶やかな音、透き通る和声、深みのあるユニゾンが生まれる。気がつけば4人も譜面台から離れていた。
高塚 昌彦 (音楽現代 2016年2月号より)

「ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団」は2001年、ウィーン放送交響楽団のトップメンバーたちによって結成。これまで9回の来日では全国各地で公演を行い、その調和のとれた音楽で観客を魅了し、室内楽の楽しさ、素晴らしさを伝え、絶賛を博した。2011年から2人の新しいメンバーを加えて、ますますハイレベルでエネルギー溢る演奏を披露している。



フランツ・ズィーゲルト

Franz Siegert, 1st Violin

ドレスデンに生まれる。ウィーン国立音楽大学にてクリスチャン・アルテンブルガーに師事し、2009年同大学院修士課程を最優秀で修了。2008年よりG. マラー青少年オーケストラのコンサートマスターを務め、またバイエルン国立歌劇場及びバイエルン国立オーケストラ、ロンドンフィルのゲストコンサートマスターを務める他、ウィーン国立歌劇場、ウィーンフィルでも演奏する。2009年よりウィーン放送交響楽団コンサートマスターを務める。



スティーヴン・モラー

Steven Mohler, 2nd Violin

アリゾナ大学、カルフォルニア大学を卒業後、ウィーン国立音楽大学にてクラウス・メッツル、ギュンター・ピヒラー両教授に師事。ビクトリア交響楽団 (カナダ)、ピアチェンツァ交響楽団 (イタリア) のコンサートマスター、またハイデルベルグ市交響楽団、ウィーン室内管弦楽団を経て、現在ウィーン放送交響楽団の第2ヴァイオリン首席を務める。また、ウィーン九重奏団の一員として室内楽でも活躍。



トーマス・ブンバル

Tomas Bumbal, Viola

ブラティスラヴァに生まれる。5歳よりヴァイオリンを始め、ブラティスラヴァ音楽院を経て、2003年ウィーン国立音楽大学を最優秀で卒業。ヴァイオリンをフランツ・サモイ、ヴィオラをハンス＝ペーター・オクセンホーファーに師事。2003年よりウィーン放送交響楽団の次席ヴァイオリン奏者を務める。また平行して室内楽の活動も精力的に行っている。



ティル・シュスラー

Till Schübler, Violoncello

ケルン国立音楽大学にてクルト・ヘルツブルッフ、ウィーン国立音楽大学にてバレンティン・エルベン両教授に師事。その間、室内楽をアマデウス・カルテット、アルバン・ベルグ・カルテットに師事。ウィーン室内管弦楽団首席を経て、現在ウィーン放送交響楽団の首席チェロ奏者を務める傍ら、マスタークラスなどで後進の指導にも当たっている。